

5月22日の新入職員研修の時、市長がされた話を紹介します。

視野を広く

新入職員のみなさんが入庁して2か月が経ちました。みなさんには長久手市がどのように見えますか？私が思うにこの長久手市は、本当に恵まれたまちです。施設も充実しており、暮らしている市民の方々もとても元気で、ありとあらゆるものがこの長久手市にはあります。少し物足りないのは「森」



が少ないということです。緑の多いまちは豊かな印象があります。私はこの長久手市を緑があふれる「帰りたくなるまち」にしたいと考えています。

では、どうしたら帰りたいたいと思えるまちづくりができるのか。職員のみなさんは、まずは市役所の外に出てみてください。市役所に働いている者としてこの長久手市の良さを見つけることのほかに、まちに出て自分で課題を見つけてみてはどうでしょう。まちを歩くと市民の方々に会います。そこでちょっとした立ち話や途中で立ち寄った喫茶店での市民の方々の会話などから、長久手市をさらにより良いまちにするヒントがあります。そして市内だけではなく県外に目を向けると、長野県にあるエンゼルパークという公園墓地や北海道の真駒内曙中学校などお手本にしたいような場所がたくさんあります。市役所の中の仕事を覚えることも大切なことだけれども、せっかく市役所に勤めることになったのだから、外に出て、自分が「こうしたい！」という課題を見つけて、楽しく取り組んでください。

キーワードは「あいさつ」

今、市役所の中でオレンジのベストを着ている職員がいます。みんなで積極的に声をかけ合うために「あいさつ運動」を日頃から実施しています。最近、長久手市は自転車の盗難など犯罪率が高い地区があるということを知りました。昔を考えると、隣近所のことには当たり前のように知っていたため、市民が知らないうちに「安心安全なまち」ができていました。元気のない人に声をかける、いつも

見かける人にあいさつをする。簡単なことのように続けることはなかなか難しいことです。人間関係というのも自分が思ったようにいかないことの方が多いと思



います。しかし続けていればかわることもあります。あいさつを返してくれるようになったり、話すことが増えたりするなど、人と人が支え合うような、市民と一緒に考えるまちづくりというのはあいさつがはじめの第一歩になるのです。新人のみなさんも恥ずかしながら、どんどんいろんな人に声をかけてみてください。

～市長の話を聞いて～

市長が新人職員一人ひとりに仕事について尋ねていくと「もっと長久手のまちを探索したい」、「文化の家の素晴らしい行事を知ってほしい」などの意見が出てきました。また逆に、市長から参考にするといい場所などの情報をもらっていた人もいました。まだまだ市役所の外のことを知らない私たちにとって、市長の話はとてもいい機会になりました。今取り組んでいる仕事に余裕ができたなら、「自分が何をしたいのか」「何をしたら市民の方々に喜んでいただけるのか」を考えて、市民のみなさんとともにまちづくりをしていきたいと思ひます。